

秋の鶴ヶ城とその史跡を巡る

秋も深まる会津若松。

鶴ヶ城も少しずつ色づいています。

今日は秋の会津若松市内を、鶴ヶ城関係の史跡巡りに出かけてみました。



茶室麟閣



千利休の子・少庵が建てたと言われる茶室です。

お客様がお茶を楽しめたり、定期的に茶会が開かれたりしています。

戊辰戦争後、城下に移築され保存されていましたが、平成2年に元の場所である鶴ヶ城内へ移築復元されました。

西郷頼母邸跡



北出丸（鶴ヶ城の入り口）を出ると、会津藩家老 西郷頼母の屋敷跡があります。戊辰戦争で城下に新政府軍が殺到した時に、一族21人が自刃した悲劇の場所です。秋には周辺のイチョウが黄金色に色づき、華やかな色合いを見せます。

七日町通り



七日町通りにやってきました。

七日町通りは、大町四つ角を起点とする日光、米沢、越後街道が通っていたことから、問屋、旅籠、料理屋が軒を連ね、明治以降も重要な通りとして繁栄しました。

最近では、大正浪漫調の街並みづくりによって観光客に人気のスポットとなっています。



御三階



大正浪漫風の七日町駅舎の向かい、渋川問屋のレンガ通りを少し入ると「阿弥陀寺」というお寺があります。

阿弥陀寺の本堂横にある建物は「御三階」と呼ばれ、かつては鶴ヶ城本丸内にあった建物です。外観上は三階ですが、内部が四層になっており密議の場所として使用されたといわれています。

明治3年本丸にあった鶴ヶ城御三階は阿弥陀寺にうつされ、仮本堂として使用されました。また阿弥陀寺には、戊辰戦争戦死者が埋葬されており、新選組隊士齊藤一の墓もあります。



鶴ヶ城へ戻ってきました。
お城ボ君がお出迎え。

夕方近くのこの時間も多くの観光客でにぎわっています。
お堀にも秋の夕日が美しく映えていました。

